



データ活用社会創成プラットフォーム “mdx”

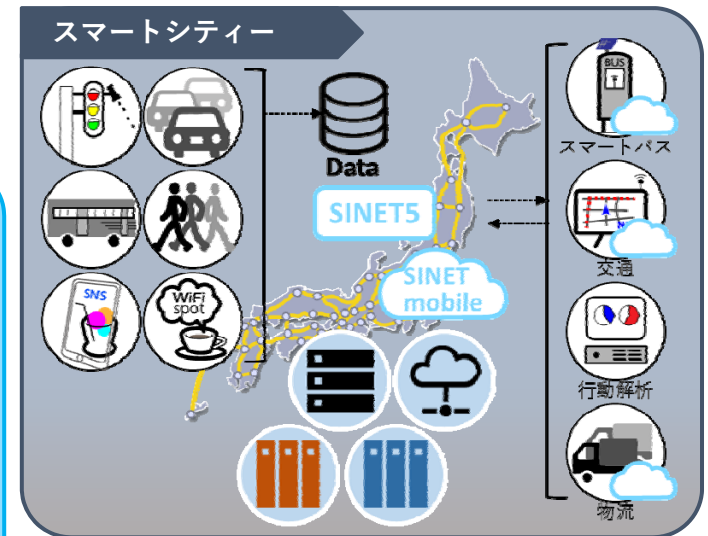
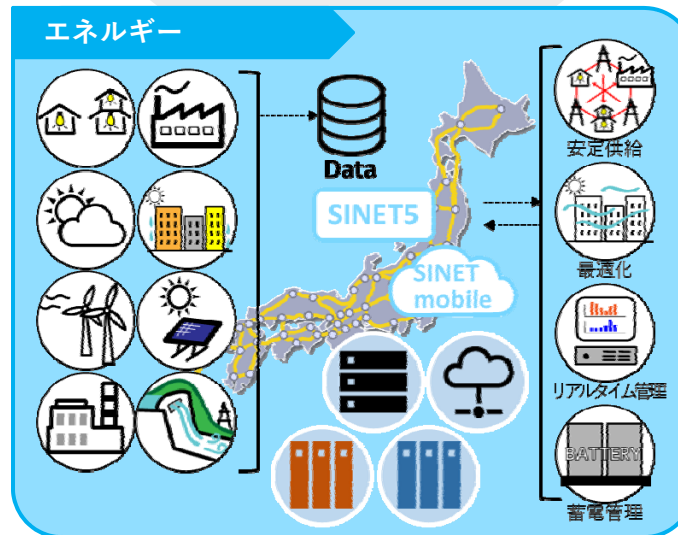
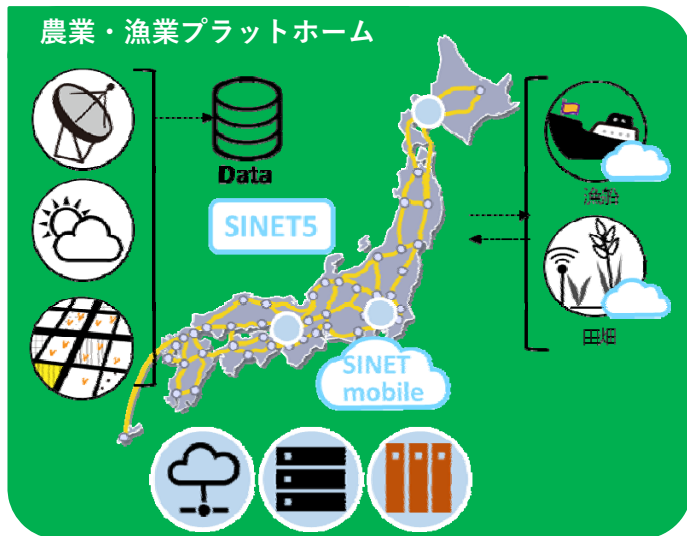
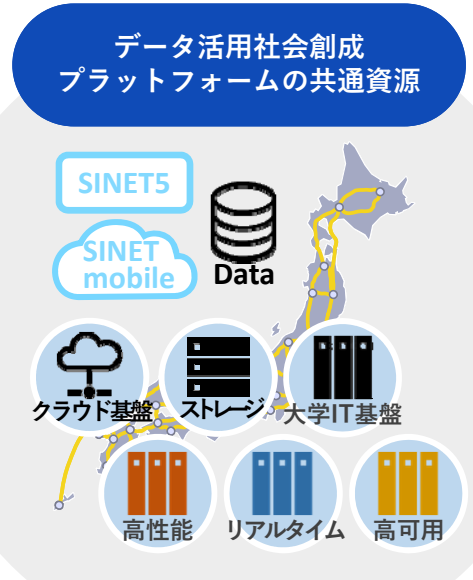
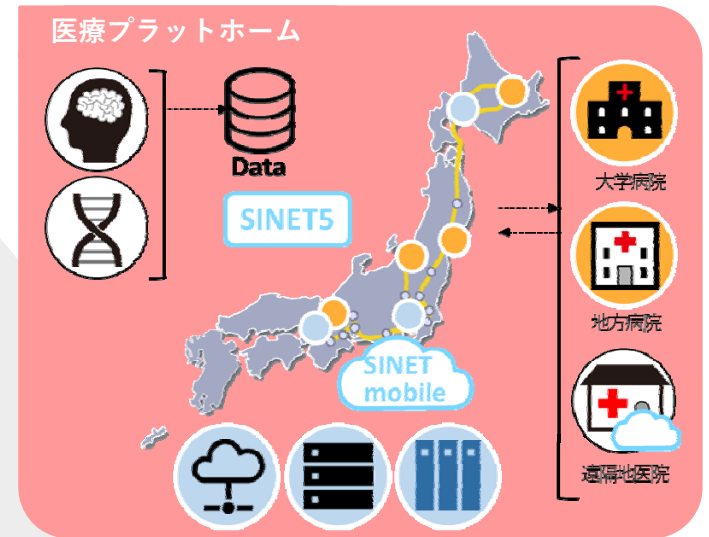
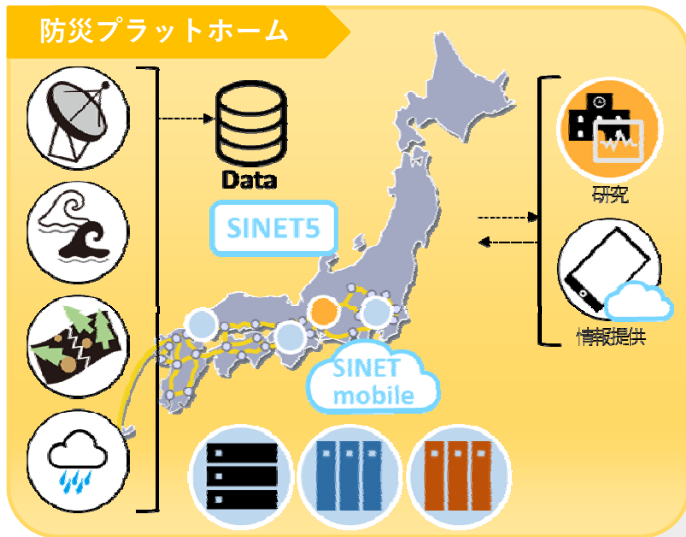




[内閣府作成]

https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

オンデマンド データプラットフォーム



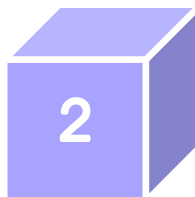
「データ活用社会創成プラットフォーム」は用途に応じてオンデマンドで**短時間に構築・拡張・融合**できるデータ収集・集積・解析機能を提供するプラットフォーム。



データ活用社会創成プラットフォーム 3本柱



SINETを活かしたリアルタイム収集・集積・解析環境の動的な構築
遠隔地のセンサーやストレージ、データプラットフォームの計算資源、ストレージをつないで、リアルタイムに入力から出力を得られるアプリケーションごとの収集・集積・解析環境（仮想データプラットフォーム：仮想DP）を、使いたいときに即時に構築する
SINETモバイル基盤によりセンサー等のデータを安定してセキュアにつなぐ



高性能計算環境による**データ科学と計算科学の融合**

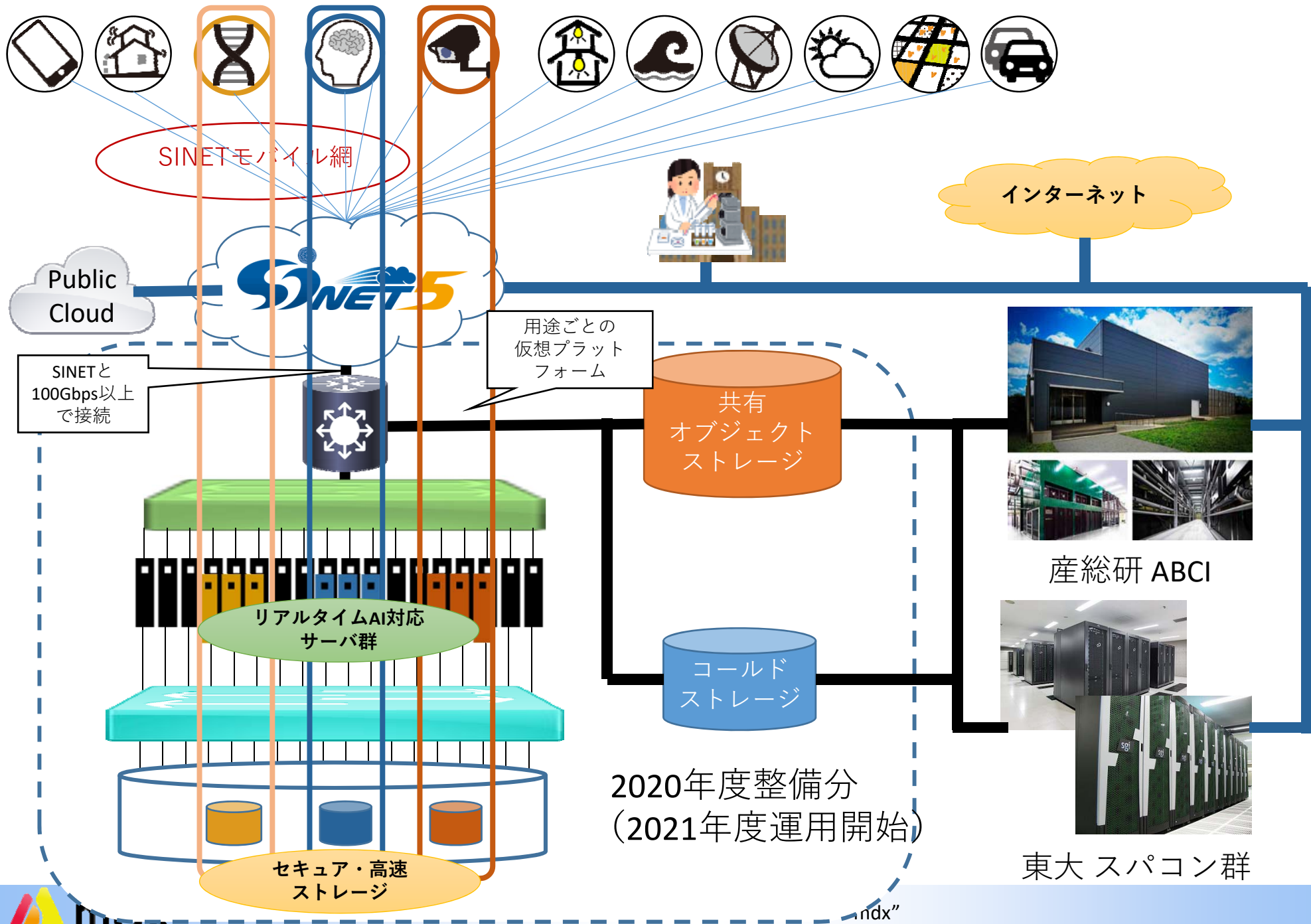
データ科学、計算科学の手法を融合し、さらに国内最高の計算環境を用いて他に無い高精度の予測を行えるようにする



異種データ・異種知識の**融合活用**の推進と利用者支援

様々な分野のデータ保持者、解析者、利用者が産学にまたがって連携するコミュニティを形成し、新たな価値創造につなげる。
データ活用を目指す利用者へのコンサルティングや開発支援を実施する。

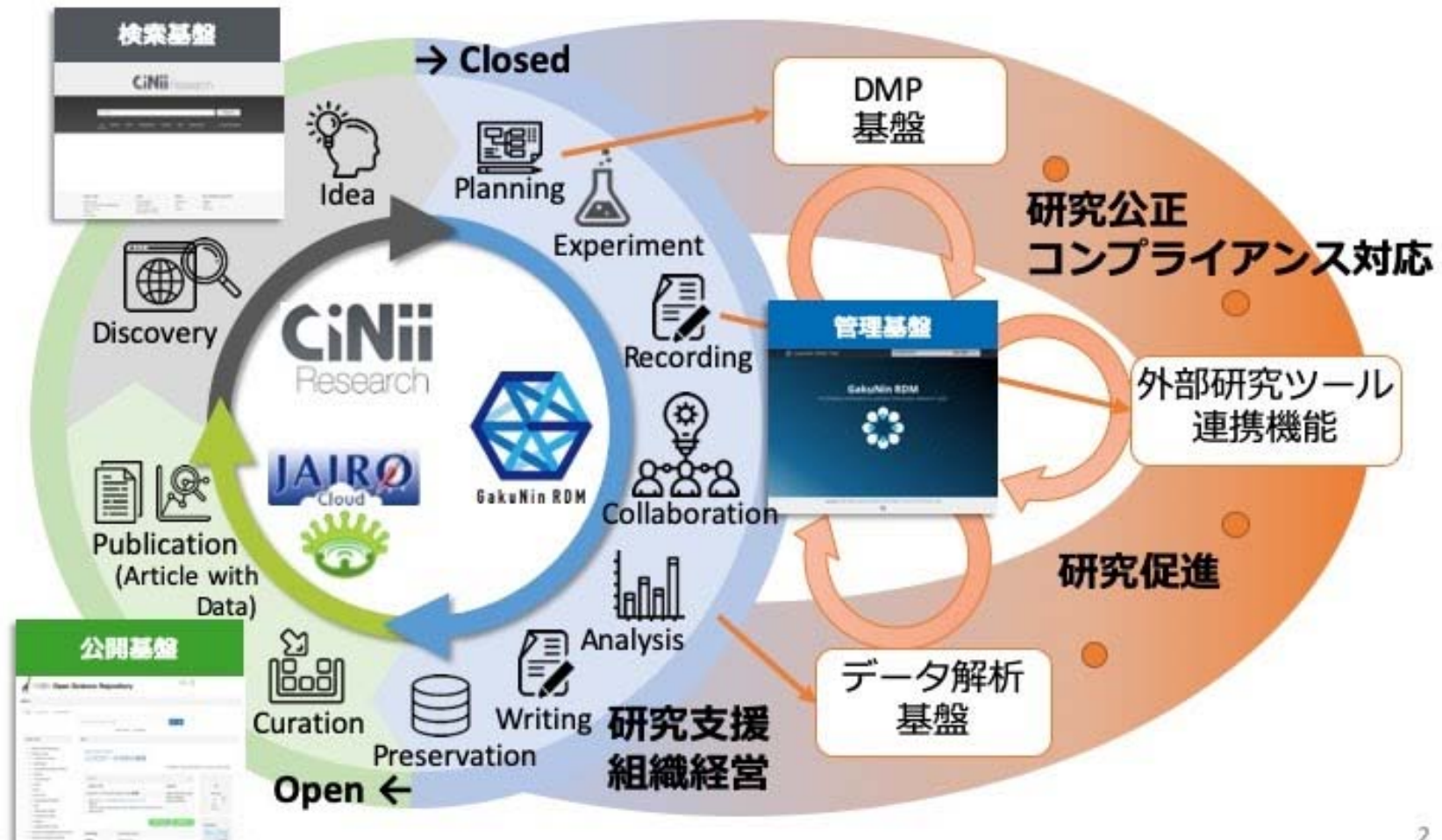
データ活用社会創成プラットフォーム：インフラ構成





NII（国立情報学研究所）
藤原 一毅 先生

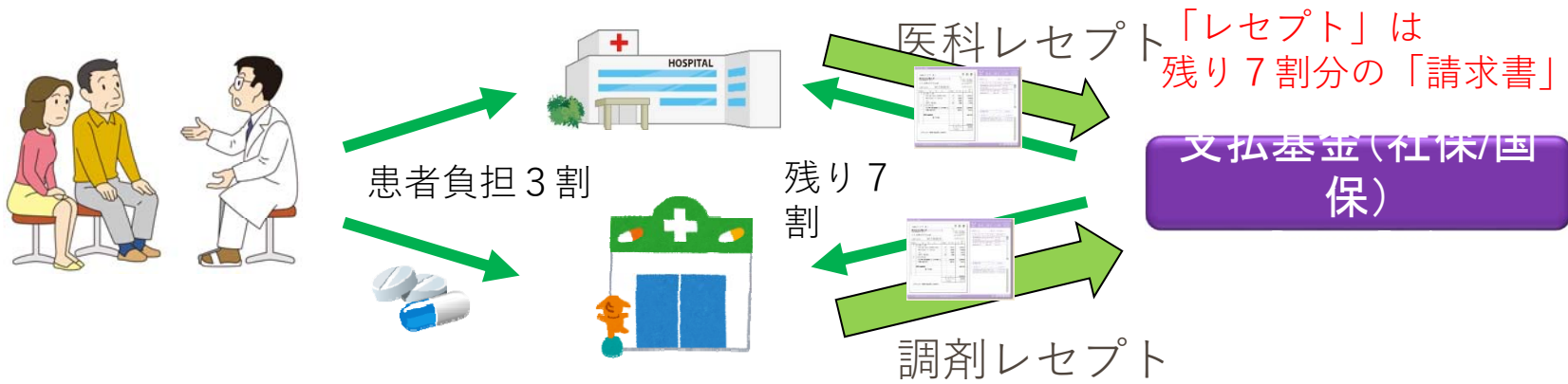
NII Research Data Cloud (RDC)



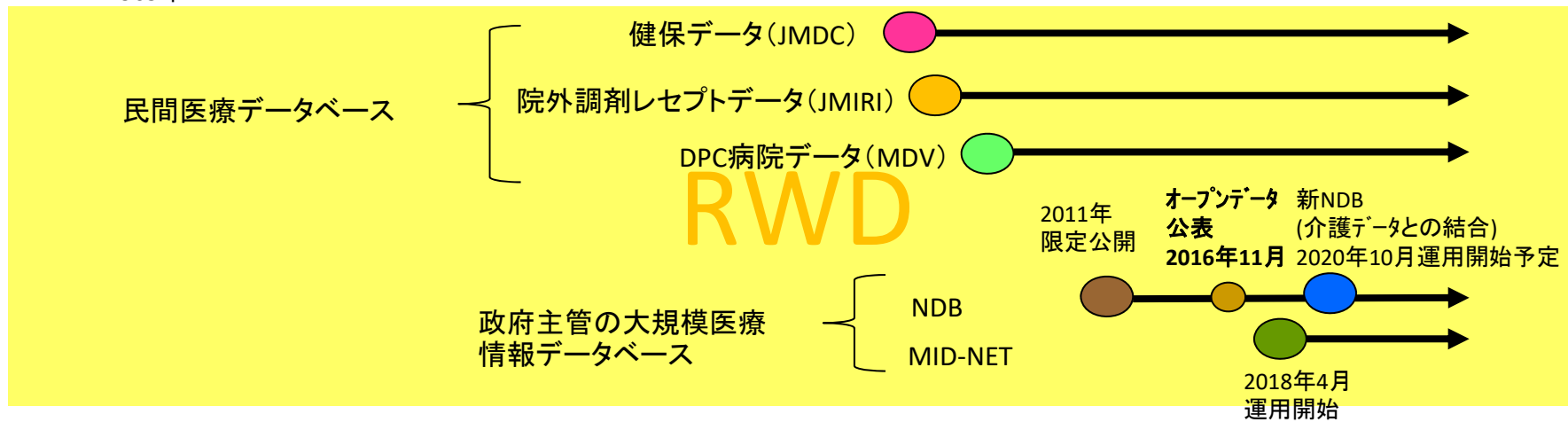


東京大学
清水央子 先生

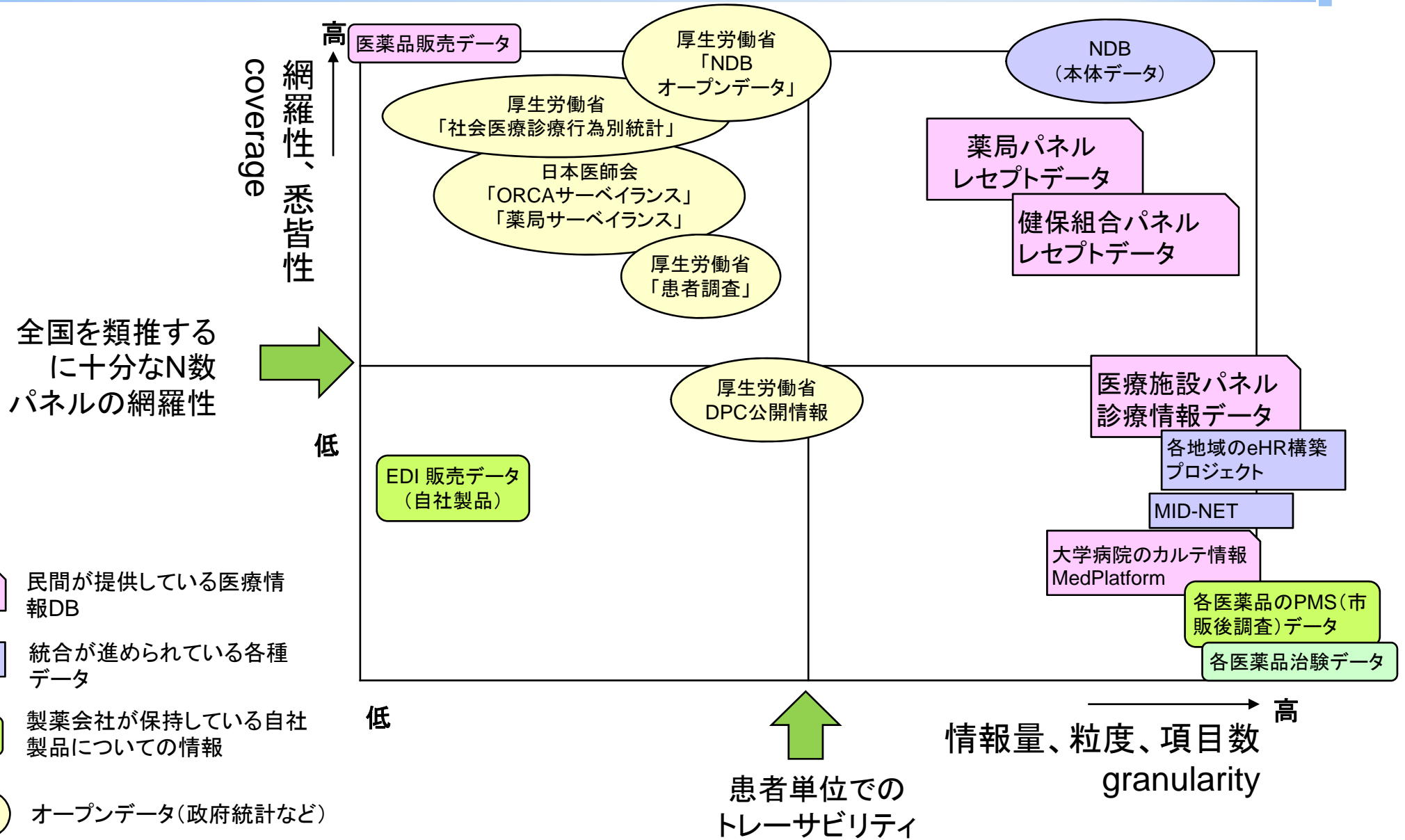
日本の医療情報データ概要



1965年 IMS: 「医薬品市場統計」(JPM)

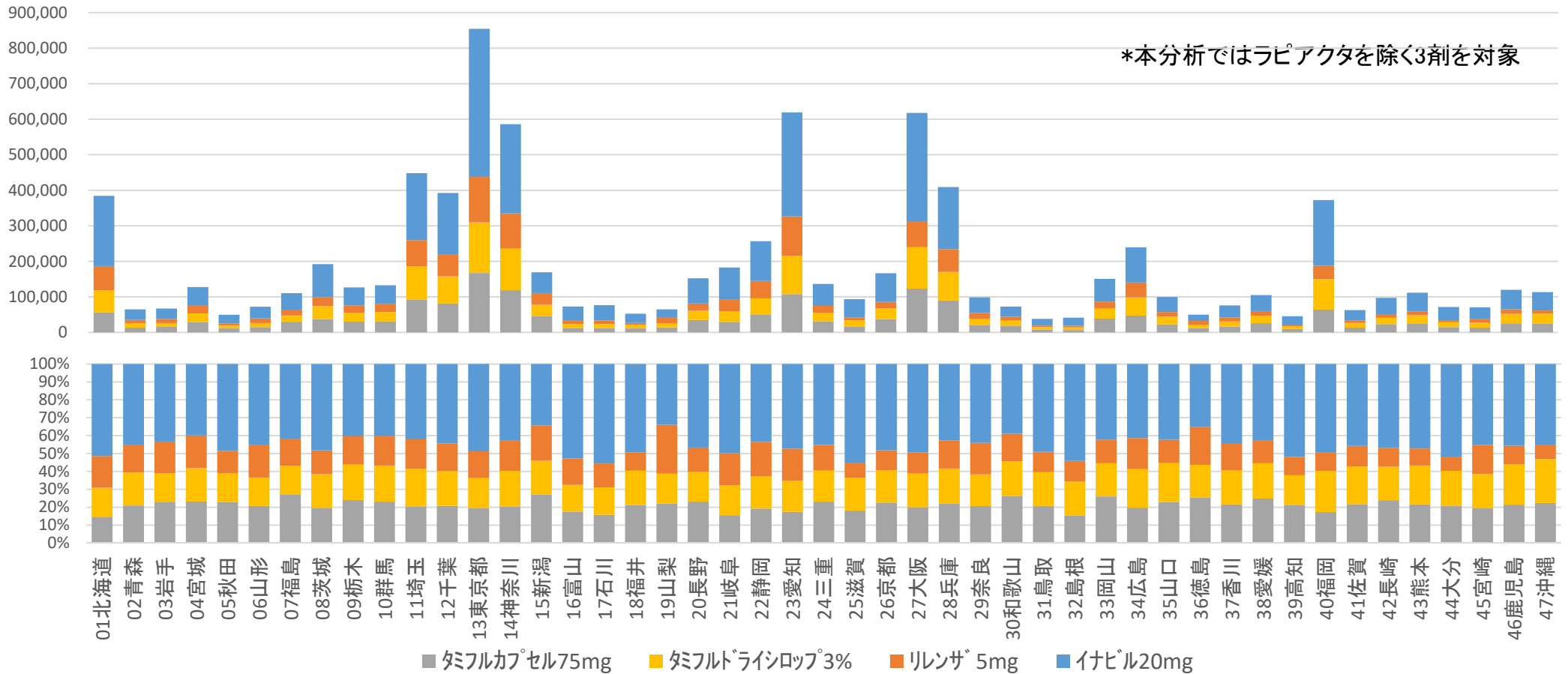


日本の医療情報データ相関図



© Eiko Shimizu, IT Healthcare All Rights Reserved

抗インフルエンザ薬3剤*の都道府県別の使用状況



Source: 第2回NDBオープンデータ



国立歴史民俗博物館
後藤 真 先生



つなげる × ひろげる × つたえる ↔ みつける
博物館型研究統合

総合資料学を实践する 「研究循環アクセスモデル」 のためのユニット制研究体制

人文情報ユニット

研究を通して資料から得られる多様な情報を、新たに情報基盤環境として整備するとともに、多様な形で展開するユニットです。環境整備のための取り組みそのものも、国際会議や国内外の若手研究者とのワークショップなどを通じ、人文情報学の新たな研究として推進します。

② 研究成果の根拠を
手の届く形に

③ 海外における
日本研究の活性化



総合資料学の最終形は「場の学問をつくる」ことです。
各地域の史料がデータで出会う場を作る。新たなデータと多分野の研究者が出会う、研究者が人文系の研究者と自然科学の研究者が出会い新たなコラボレーションを展開する。文庫を超えた若手研究者の交流を国内外問わず促す。産学連携と地域の保全をつなげる。こうした多くの「コラボレーションの可能性」のための「アゴラ」を作ることで、資料と研究を広く大学に提供する大学共同利用機関の役割に適うものになると考えます。



異分野連携ユニット

歴史資料の「モノ」としての側面に注目し、文系・理系の研究者が集中的に研究討論するユニットです。一つひとつの資料から今まで以上に豊かな情報を引き出し、他ユニットの展開・アウトリーチと合わせてさまざまな学問分野に還元します。

① 大学・博物館等の
資料の文理横断研究



④ 災害時の大学・博物館等の
情報のバックアップ



地域連携・教育ユニット

総合資料学に基づく研究成果を地域社会に還元するモデルを作るユニットです。各ユニットの成果をもとに、各大学・博物館等を通じて地域の歴史像を解明し、研究成果を地域に発信するとともに、教育プログラムや移動型展示による普及活動などのアウトリーチを行います。

研究循環アクセスモデルの主な成果 (平成28年度～平成31年度)

- ・大学等で広く使える歴史情報基盤 (khirin) の創出
- ・「歴史情報学の教科書」の刊行
- ・和紙の自然科学的分析を中心とする文理解合型成果
- ・ミシガン大学電子書籍シリーズ (fulcrum) を含む毎年の学術的成果書籍の刊行
- ・トップカンファレンスを含むヨーロッパ、アメリカ、アジアでの成果報告や毎年の国際研究会
- ・千葉大学 (平成28年度～) との共同によるプロジェクト・ベースド・ラーニング授業の実施
⇒長崎大学大学院 (平成30年度～) との「未来世代育成プログラム」による連携教育
⇒ルーヴェン・カトリック大学 (ベルギー) を含む国内外の学生が一堂に会する教育機会に発展



